

ニュースレター

# いりおもての森から

発行：林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

沖縄県石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎 1階

TEL 0980-88-0747

No.71号

世界自然遺産の登録から4年目！

## ～ 令和7年度のセンター業務を振り返って ～

令和7年度は、世界自然遺産の登録から4年目となり、西表島に限らず、離島の各島々にも多くの観光客が訪れており、特に自然体験型のアクティビティなどは観光のメインとなっています。一方で自然環境への影響も危惧され、保全と利用のバランスの重要性を改めて直接肌で感じているところです。この様な中で今年度の業務を振り返りたいと思います。

大きな話題は、西表島におけるノヤギ対策についてです。ノヤギは日本や世界の侵略的外来種ワースト100に指定されており、沖縄県の外来種リストの中でも優先順位の高い「重点対策種」に指定されています。西表島の東部にある西表島で最も高い古見岳（469.5m）周辺を主に、10年前より目撃情報があり、年々の増加及び拡大傾向が示唆されています。ノヤギは元々飼育されていたヤギが逸脱や放逐されたものが野生化したとされており、世界自然遺産の委員会等において、「ノヤギによる下層植生の衰退傾向、森林更新の阻害や森林生態系の多様性が懸念される」、と報告されているところです。このことから、令和2年度に環境省、林野庁、沖縄県、竹富町等の関係部局で構成された「西表ノヤギ連絡対策連絡会議」が設置され、①ヤギの適正飼育の推進と条例制定、②全島における生息状況の把握と



観光客が一番訪れるピナイサーラの滝



過去に撮影されたノヤギ

ノヤギ根絶、③ノヤギ防除手法と体制の確立、を目標に掲げ、その目標の達成に向け取り組むこととして  
しています。

西表センターと沖縄森林管理署は西表島におけるノヤギ対策の一環として、令和6年度から生息状況  
の把握を目的として監視カメラを設置し各関係機関に情報提供を行っています。カメラの設置に際して  
は専門的な先生からの助言を参考にするとともに、設置場所については、環境省や沖縄県と被らない場  
所を選定するなど調整を行いながら実施しており、今後も各機関と連携し取り組みを進めていきます。

次に、西表島の希少動植物の対策における協力及び連携についてです。西表島は、ほぼ全域において  
国立公園や森林生態系保護地域などの保護区に指定されており、様々な法令によって捕獲等を禁止され  
ている動植物が多数生息生育しています。これらの保護と理解を深めることを目的として、環境省が主  
体となり、持ち出し防止の啓発活動や夜間における密猟対策パトロールなどに参加し協力しています。

先に述べましたように、年々観光客が増加して  
おり、昆虫採集や盗掘への対策がより重要となっ  
ています。各機関と連携しながらセンターとして  
の役割をアピールし、各種取り組みを進めていく  
ことが重要だと考えています。

最後に、令和8年度は世界自然遺産登録5周年  
の節目の年となります。これまでセンターが取り  
組んできた内容を改めて見直しながら、さらに令  
和8年度の西表森林生態系保全センターの活動が  
飛躍できるよう安全第一で各種業務に邁進しま  
す。



希少種持ち出し防止啓発活動（西表大原港）

## 西表島の樹木いろいろ①



イイギリ(イイギリ科)

(出典：西表島の植物誌)

山地に生育し、高さ15m以上  
なる落葉の高木です。葉は卵形で、  
葉の縁にはややまばらな鋸歯があり  
ます。葉の表面は緑色〜濃い緑色、  
葉の裏は白色です。実は円形で総状  
または円錐状に垂れ下がります。

【イイギリ】

自然環境教育の一環として

## ～ 上原小学校で森林教室を開催 ～

当センターでは、自然環境教育の推進を目的として生徒向けの「森林教室」や教員向け「森の塾」等世界自然遺産である西表島の特徴や国有林の業務、センターの活動などについて幅広く理解してもらう場を開催しています。今回は10月1日（水）に竹富町立上原小学校で森林教室を行いました。西表島の森林を広く管理している林野庁ですが、生徒たちが「林野庁がどのような仕事をしているのかわからない」との意見があったことから、西表島で行っている業務やマングローブ林についての説明を当センター職員2名、沖縄森林管理署職員2名の計4名で行いました。

当日は2時間目に3年生、3時間目に5、6年生（合同）に授業を行い、樹木の生長量調査で使用する測竿（樹高を測定する道具）や輪尺（胸高直径を測定する道具）等の現場道具を用いて実際に子供たちに体験してもらいながら授業を行いました。

また、マングローブ林の説明では、「西表島に日本の何割のマングローブ林があるのか」、「何種類くらいあるのか」などクイズ形式で授業を進めました。3年生の授業では問題に対する回答が途切れることがなく、逆に質問されるなど活発的な授業になりましたが、5、6年生では少し落ち着いた雰囲気があり、淡々と授業が進んでいったため授業内容が少し簡易的になったと課題も残ったところです。

生徒達からは、「西表島で林野庁職員が働いていること」、「林野庁の仕事や国有林について理解できた」、「マングローブ林が珍しいものだとならなかった」などの感想が聞かれました。今後も森林教室をとおして、地域の子供達とのふれあいや西表島のすばらしい自然をみんなで守っていけるようより一層取り組んでいきます。



調査道具（測竿）の説明



クイズに答える生徒たち

西表島最高峰の古見岳へ！

## ～大原中学校三人行事【古見岳登山】を支援～

当センターでは、竹富町立大原中学校の伝統である三人行事を支援しています。生徒は在学中の三年間で、【西表島横断】、【古見岳登山】、【仲間川筏下り】に参加することとなり、今年は【古見岳登山】の年です。古見岳は西表島における最高峰（約470m）の山で、令和7年10月3日（金）に、中学生32名、ガイド及び保護者27名、教職員5名、関係機関9名（当センター2名、沖縄森林管理署3名、環境省2名、JEMS2名）の計73名で6班に分かれて山頂を目指し出発しました。

古見岳に登山するには、ユチン川の登山口（西部側）と相良川の登山口（東部側）から登るルートがありますが、大原中学校では毎回相良川沿いから登り、ユチン川沿いにするルートで実施しています。午前7時半に出発し、スタートから1時間はゆるい登り道で、会話をしながら登る余裕がありましたが、途中からは急斜面が続き、山頂につく頃には体力が底をつき、膝が悲鳴をあげていました。下山できるか体力面での不安もありましたが、途中のユツンの滝上から見える絶景で休憩をはさみ、途中の沢では生徒同士や親子で水遊びする様子なども垣間見ることができ、午後4時半頃日程どおり無事に下山することができました。

今回の登山では、生徒が安全に登山できるようにサポートに徹するつもりでしたが、生徒同士で声を掛け合いながらペース調整を行う姿や、体調不良の生徒にいち早く気付いて大人たちに知らせる姿など自発的に対応できる姿勢には驚かされました。登山終了後は大原中学校で解散式を行い、無事脱落者ゼロで行事を終えることができました。来年度は【仲間川筏下り】が予定されていますが、引き続き学校と連携を取り、サポートしていけるよう取り組んでいきます。



出発式（一致団結する参加者一同）



ユツンの滝で涼む生徒の様子



山頂からの景色



解散式の様子

伝統の三大行事！

## ～船浦中学校テドウ登山で自然体験学習を支援～

令和7年11月21日（金曜日）、船浦中学校の生徒37名と教職員、保護者、協力者など総勢69名による「テドウ登山」が実施され、当センターから2名が参加しました。

今回の登山は、次の3つのねらいを込めて行われました。

- （1）自然の素晴らしさや厳しさを体感し、環境問題について考える機会とすること
- （2）助け合い・励まし合う心を育て、友情の輪を広げるとともに忍耐力を養うこと
- （3）生徒・保護者・教師・地域・協力者がふれあう機会とすること

当日は、午前7時に船浦中学校近くの駐車場に集合し、出席確認や健康観察を済ませた後、出発集会（結団式）を行い、その後、浦内川河口から軍艦岩まで観光船に乗りテドウ山に向け出発しました。



出発集会（結団式）の様子



観光船に乗って出発

カンピレーの滝では、亜熱帯の森から流れ落ちる水流を堪能し、午前 11 時過ぎにはテドウ山に到達し、山頂で昼食をとり学年ごとに記念撮影を行った後、下山を開始しました。途中、ピナイサーラの滝上では季節外れの水遊びを楽しむなど、生徒たちは元気いっぱい保護者もその姿に元気を貰っているようでした。午後 4 時頃には全員が目的地に到着し、無事に「テドウ登山」を達成しました。

本日の最終行事である解団式では全体の総括が行われ、炊き出し班の皆さんが準備したジュースや八重山そば、焼き鳥を全員でおいしくいただき、充実した一日を締めくくりました。



カンピレーの滝で大自然を堪能



険しい山道を登る生徒達

当センターでは、西表島の船浦中学校の伝統である三大多行事に参加し、生徒が安全に、かつ楽しみながら自然に触れ合い、西表島の生態系や森林の役割について学び、自然保護の重要性を再認識できるような自然環境教育の支援に取り組んでいます。今回の活動を通じて、生徒からは「自然の中で仲間と協力できて楽しかった」「安全に登山できてよかった」といった感想が寄せられ、地域と連携した学習の大切さを改めて確認する 1 日となりました。



山頂付近からの遠望（海中道路を望む）



解団式・美味しい食事を堪能

## 西表島の樹木いろは②



イジュ(ツバキ科)

(出典：西表島の植物誌)

【イジュ】  
山地の荒れた場所に生育し、高さ10m以上にもなります。葉の長さは8〜13cmで成木では枝先に集まってつきます。花は白色で径5cmくらいです。実は径1.2〜2cmで、5つに割れますが開かず、そのまま地面に落下します。

今後の活躍に期待！

## ～JICA 北海道センター(帯広)の講義及び西表島のマングローブ林を視察～

当センターは、独立行政法人国際協力機構（JICA）北海道センター（帯広）が行う研修で「地域住民の参加による持続的な森林管理」コースの講義依頼を受け11月4日(9:00～12:00)、11月7日(9:00～12:00)に研修を行い、13カ国から15名（男性11名、女性4名）の研修員が参加しました。

初日の講義内容は、「日本の森林や森林管理」「西表島の森林と森林利用」「西表島のマングローブ」「西表森林生態系保全センターの業務」の4つのコンテンツに分かれており、約3時間、質疑を受けながらの講義となりました。

2日目は西表島に移動し、森の巨人たち百選に選定されている仲間川のサキシマスオウノキや雄大なマングローブ林の説明、並びに大富遊歩道沿いで当センターが行っている業務内容等を現地で説明するなど、昨年度は台風接近のあおりを受け高速船が運休し実施できませんでしたが、今年度は多少雨にも見舞われることもありましたが無事、研修生に雄大な西表の大自然を見てもらうことが出来、安堵したところです。



講義の様子



外来種駆除の取組について説明

15名の研修生は各国の抱えている課題はそれぞれ異なりますが、森林に携わっているのは皆さん共通しており、西表島の森林保全に対する取り組みなどの説明や意見交換を行うことで少しでも参考になっていただければと感じたところであり、皆さんの帰国後の今後の活躍を期待していることを伝え研修を終了しました。



仲間川をバックに（大富展望台より）

## 西表島の樹木いろは③



イスノキ(マンサク科)

【イスノキ】  
山地の斜面下部から中部の肥沃な場所に生息する常緑の高木です。葉の縁は滑らかですが、時には上部に鋸歯があり、しばしば大きく膨らんだ虫こぶができます。花は腋生し赤色の花が総状花序に咲きます。

（出典：西表島の植物誌）

## 西表森林生態系保全センターからのお知らせ

※ホームページではニュースレターのバックナンバーが確認できます。また日々の活動報告などのトピックスも随時更新しています。

[https://www.rinyamaff.go.jp/kyusyu/iriomote\\_fc/](https://www.rinyamaff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/)

